

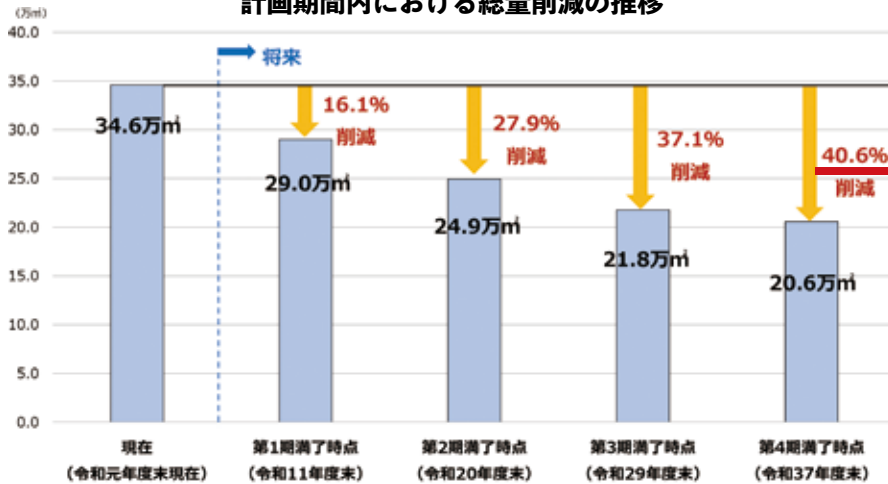
# 次世代へ 引き継ぐために できること

計画を推進することで、安心・安全かつ魅力ある公共施設を次の世代へ引き継ぎます。

公共施設の配置の適正化を推進した場合、本計画の計画期間である第1期満了（令和11年度末）時点において、現在所有している公共施設の面積に対して16.1%の削減が、第4期満了（令和37年度末）時点では、40.6%の削減が見込まれます。

またコスト面においても、現在保有する全ての公共施設を維持し続ける場合、今後35年間の将来更新費用の総額約1515.7億円という試算に対し、公共施設の配置の適正化を

計画期間内における総量削減の推移



将来更新費用の削減額

計画期間	建築物の将来更新費用			
	① 現有規模で更新 (総合管理計画)	② 個別施設計画 (適正配置・長寿命化)	②-① 削減額	削減率
令和3(2021)年度～ 令和37(2055)年度	約1,515.7億円	約902.9億円	▲約612.8億円	約40.4%
上記1年度あたり	約43.3億円	約25.8億円	▲約17.5億円	
充当可能と推測される 普通建設事業費	約856.4億円 (24.5億円/年)			

推進した場合の総額は約902.9億円と、削減効果は総額約612.8億円、年間では約17.5億円（削減率約40.4%）が見込まれます。

ただし、一部の施設分類においては、新たに更新計画を定めるなど、将来更新

費用の見通しは計画策定時点から変わることも考えられます。事業コストに大きな変動が生じないように、各年度へ事業量を配分し、費用の平準化を図っていく必要があります。

「久喜市公共施設個別施設計画」の計画期間は令和

37年度までですが、第1期から第4期の期間設定を行ったうえで、おおむね10年を目安に見直しを行っていきます。老朽化した施設の統廃合や余剰施設の複合的な活用などを行い、行政サービスを維持しつつ、長期的な財政支出の削減を図りながら、安心・安全かつ魅力ある公共施設を次の世代へ引き継ぐための取組みを進めていきます。

久喜市公式動画チャンネルでも解説！

